

1 取組の概要

本校では、教科・領域における学習やボランティア活動を平和教育として体系的に位置付け実践することを通して、平和な世界を築こうとする意欲や態度、異文化に対する理解や異なる文化を持つ人々と共に協調して生きていく態度を身に付けさせることを目指している。

そのため、各学年の関心や発達の段階に配慮し、3年間を見通した指導計画に基づき、教科等と関連付けながら取組を進めている。

具体的には、全校平和集会において、被爆体験や国際平和活動に関する講話を聴講し、平和のために何をすべきか考えたり、各学年が平和について学習してきた取組を発表したりしている。

また、8月6日に平和記念公園を訪れている外国の方々へ作成したピースメッセージカードを手渡し、英語を使って平和を訴えるピースボランティア活動も行っている。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、生徒の発達の段階等に考慮しながら、3年間を見通した指導計画に基づいて、次のような取組を行っている。

- 第1学年「平和記念公園でのフィールドワーク」
原爆の被害や歴史的背景などについて事前学習し、「原爆の子の像」の前で平和集会・折り鶴献納、碑めぐり、被爆体験継承者の講話の聴講、広島平和記念資料館の見学などを行い、後日新聞にまとめる。
- 第3学年「日本語版平和宣言の作成」
各学級でオリジナルの日本語版「平和宣言」を作成する。
- 第3学年「英語版平和宣言の作成」
日本語版「平和宣言」を英訳する。
- 「ピースメッセージカードの作成」(ピースボランティア)
第3学年が作った英語版平和宣言を、鳩を象ったメッセージカードの羽に貼り付け、カードを完成する。
- 「JICA交流員との交流」(ピースボランティア)
JICAの協力により10か国から短期研修員の方を招いて英会話練習と国際交流を行う。昨年まではALTを招聘し、英会話練習等を行う。
- 「8月6日ピースボランティア活動」(ピースボランティア)
平和記念式典参加後、生徒の手で作成した英語版ピースメッセージカードを、練習した英語を使って平和記念公園を訪れた外国人に手渡し、平和に対する願いや思いを訴える。
- 「全校平和集会」
被爆体験や国際平和活動に関する講話を聴講する。合わせて、各学年の平和学習の取組について発表を行う。

(2) 指導のポイント

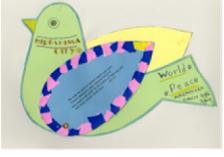
- ☆ 異文化理解や協同的な課題解決のための態度の育成をめざして、JICA研修員や平和公園を訪れる外国人らとの交流を計画的に行わせる。(付けさせたい力2)
- ☆ 体験に基づく能動的・発信型の取組を行う。(付けさせたい力3)
- ☆ 総合的な学習の時間、特別活動、各教科等の内容を関連付けて行う。

3 本事例の指導計画

(1) ねらい

広島市の中学生として被爆地広島について知り、平和への思いや願いを国内外に発信する実践的な取組を通して、自ら学び、考え、行動できる生徒を育成する。

(2) 対象学年 全学年

	主な学習活動	指導上の留意事項
第一次 6月	平和記念公園フィールドワーク（第1学年） 碑巡り、広島平和記念資料館見学、被爆体験の聴講、折り鶴献納を行い、平和についての理解を深める。	・実際に見聞きすることで、被爆地広島を実感させる。 
第二次 6～7月	ピースボランティア活動1（第1～第3学年） ・英会話練習 生徒会与ボランティアの生徒24人が8月6日に平和記念公園で外国の方にメッセージカードを配布する際に必要となる英会話練習を行う。	・今年度の目標として、平和について相手の考えを尋ね、自分の考えを伝えさせる。 
第三次 6～7月	長束中平和宣言の作成（第3学年） これまでの学習を振り返り、平和への思いを宣言文に表現する。	・第1学年からの学習を振り返らせ、作成させる。 
第四次 7月下旬	ピースボランティア活動2（第1～第3学年） ・JICA学校訪問受け入れ（文化交流・英会話練習） JICA研修員を相手に、英会話の実践練習と文化交流を行う。 ・ピースメッセージカードの作成 第3学年が各クラスで作成した平和宣言（英語版）を、鳩を象ったメッセージカードの羽に貼り、カードを完成させる。	・英語で話すことに慣れさせる。 ・外国の文化に興味をもたせる。  
第五次 8月上旬	平和集会 ・被爆体験聴講 被爆体験を語り継ぐ方の平和に対する思いや考え方を聴き、「平和」のために何をすべきかについて考える。	・被爆体験を聴かせ、「平和」に対する自分自身の思いをもつことができるようにする。
第六次 8月6日	ピースボランティア活動3（第1～第3学年） ・平和記念式典への参列 生徒会執行部とピースボランティアで平和記念式典に参列する。 ・ピースメッセージカードの配布 生徒の手で作成した英語版ピースメッセージカードを手渡して、英語を使って平和を訴える。	・長束中学校の代表として、自信をもって、ゆっくり、はっきり、平和に対する願いや思いを伝えさせる。 

4 生徒の反応（授業後の感想）

- ・ 戦争の恐ろしさを風化させ過去のものにしてはならない。
- ・ いろいろな国の方に出会うことができ、文化の違いや考え方の違いを感じた。
- ・ これから平和についてもっと勉強して、外国の人に伝えていきたい。

